

第2次定山溪観光
魅力アップ構想
(案)

2025～2034

目 次

■ 第1章 構想策定にあたって	
1 策定の背景	1
2 構想の目的	2
3 対象エリア	2
4 構想の位置づけ	3
5 取組期間	3
■ 第2章 観光市場の動向	
1 人口推移と国際観光市場の動向	5
2 旅行形態の変化	6
3 国内温泉地の状況	9
■ 第3章 定山溪観光の現状	
1 位置・自然環境	10
2 交通アクセス	11
3 歴史	14
4 観光入込動向	15
5 定山溪の宿泊施設の状況	19
6 観光資源	20
7 第1次構想の振り返り	24
8 定山溪エリア内の事業者に対するヒアリング調査結果 ..	30
9 現状の分析	31
■ 第4章 定山溪観光の課題	33
■ 第5章 基本方針と展開	
1 本構想のコンセプト	36
2 定山溪観光の基本方針	37
・基本方針1	40
・基本方針2	43
・基本方針3	46
・基本方針4	49

■ 第6章 観光魅力アップの推進に向けて	
1 本構想の推進体制	52
2 実施主体及び展開スケジュール	53
3 成果指標	56
4 進行管理、成果の検証	56
■ 資料編	
1 策定経過	57

1 策定の背景

札幌都心から南に約26km、札幌市南区に位置する定山溪は、地区の中央部を貫く豊平川が刻んだ四季折々の表情をみせる豊かな溪谷沿いにあり、北海道を代表する温泉街を形成しています。

定山溪の歴史は古く、慶応2年（1866年）修験僧・美泉定山がアイヌの人々の案内で泉源と出会った時に始まります。その後、札幌と定山溪を結ぶ定山溪鉄道の開業（大正7年（1918年））や国道230号の改良工事に伴う中山峠の通年通行化（昭和44年（1969年））などに加え、札幌市の人口増加や国内の経済成長に伴う宿泊需要の増加などもあり、立地条件に恵まれた定山溪は急増する宿泊需要を背景に多くの宿泊施設が集積する温泉街を形成し、「札幌の奥座敷」と呼ばれるようになりました。

戦後は団体観光客の受入れを中心に発展してきましたが、近年は宿泊需要の団体旅行から個人旅行への移行や東アジアを中心とした外国人観光客の増加など地域を取り巻く環境も大きく変化してきました。こうした定山溪を取り巻く環境の変化を受け、札幌市では平成27年（2015年）に「湯めぐり、森めぐり、水めぐり 四季あそびー札幌定山溪」をテーマに定山溪観光魅力アップ構想（以下、「第1次構想」という）を策定しました。

第1次構想は、平成27年度（2015年度）から令和6年度（2024年度）を取組期間として、4つの基本方針に掲げた取組を実施してきましたが、観光地としての魅力の向上や環境整備などは、その時々々の社会情勢に合わせて継続的に取り組んでいく必要があります。また、今後は人口減少に伴う国内旅行需要の減少、持続可能な観光に関する意識の高まりなどにより、定山溪を取り巻く環境は、大きく変化していくことが予想されています。

このような課題や環境の変化に対応しながら、定山溪のさらなる誘客に向け、札幌市と地域が連携しながら魅力的な観光地づくりを進めることが求められています。

2 構想の目的

札幌市民をはじめとし、全国、世界各国から多くの来訪者が訪れている定山渓は、豊かな自然だけではなく、食やアクティビティコンテンツなども充実し、多様な楽しみ方ができる温泉観光地へと進化を遂げている一方、近年の観光客数は減少傾向にあります。

このような状況の中で定山渓を持続的に発展させていくためには、札幌市の観光振興に係る新たな財源となる宿泊税の活用も見込み、地域資源の磨き上げや、定山渓を取り巻く環境の変化に応じて、新たな価値の創造・発信等に資する施策を展開し続けていく必要があります。

こうしたことから、今後の定山渓の観光施策の方向性を明らかにし、札幌市と一般社団法人定山渓観光協会、地域の事業者・住民などが一体となって取組みを推進するための指針として、『第2次定山渓観光魅力アップ構想』（以下、「本構想」という）を策定します。

3 対象エリア

本構想では、定山渓温泉街だけではなく、隣接する小金湯温泉や八剣山、豊滝、豊平峡、札幌国際スキー場までを含んだ広域的な観光エリアを“定山渓”として表現します。

「定山渓観光魅力アップ構想」の対象エリア

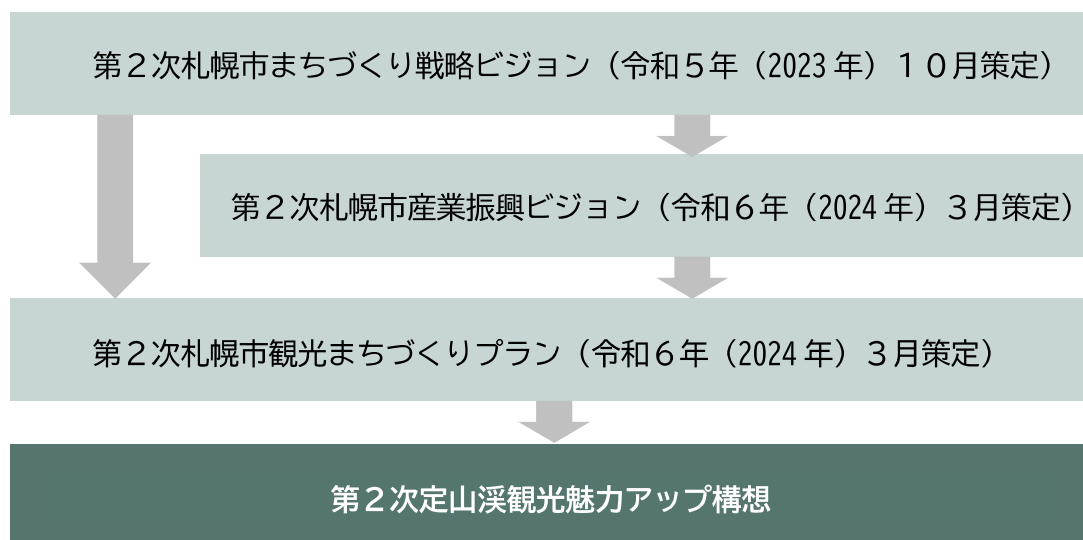


4 構想の位置づけ

本構想は、札幌市の長期的な総合計画である「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」で掲げる基本的な方向性に沿った個別計画である「第2次札幌市観光まちづくりプラン」に基づき、官民一体で目指すべき将来像及び定山溪観光に関する取組の方向性を示すことを目的として策定したものです。

構想の実現にあたっては、観光動向や利用者ニーズを的確に把握するため、毎年度収集・分析する観光関連データに基づき、単年度ごとの事業計画を策定します。こうしたデータに裏付けられた計画により、効果的かつ柔軟な施策展開を図るとともに、その成果を次年度の計画へ的確に反映させていきます。

また、本構想で掲げる成果指標の目標達成に向けては、新たな財源となる宿泊税の活用も見込み、札幌市と地域、そして新たに設立されたDMO※が、それぞれの役割を活かしながら連携・協働して、課題の解決に取り組んでいきます。



5 取組期間

本構想の取組期間は、令和7年度（2025年度）から令和16年度（2034年度）までの10年間とします。

なお、構想策定後は、社会経済情勢や成果指標、事業の進捗を照らし合わせながら、必要に応じて構想の見直しを検討します。

※ DMO：Destination Management/Marketing Organization の略称。官民の幅広い連携によって観光地域づくりを推進する法人

【参考】「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン（戦略編）」※抜粋

第2章 8都市空間 基本目標19 （2）①都市機能の更なる高度化や集積 定山溪

北海道を代表する温泉地であるとともに、豊かな自然と共生した様々な体験が可能な宿泊・滞在型の観光地としての魅力の向上に向けて、官民連携により、温泉街の魅力的な景観づくりや多様な観光資源の磨き上げ、情報発信の強化などを行います。

【参考】「第2次札幌市産業振興ビジョン」※抜粋

重点分野の振興施策 1. 札幌を含めた北海道経済の成長をけん引する「観光」、「食」 ア.観光分野

基本施策1：札幌・北海道の魅力を生かしたコンテンツの充実と付加価値の向上

③ 観光イベントや定山溪地区の魅力向上

雪まつり以外の様々なイベントの道外在住者への認知度向上や、持続的な集客力確保に向けた魅力向上を図ります。また、定山溪地区において、周遊や自然を生かした体験コンテンツの充実を図るほか、「定山溪観光魅力アップ構想」に基づく取組などを進めます。

【参考】「第2次札幌市観光まちづくりプラン」※抜粋

方向性1：札幌・北海道の魅力を生かしたコンテンツの充実と付加価値の向上

1-4 定山溪地区の魅力向上

定山溪地区は、支笏洞爺国立公園の区域内に位置する道内有数の規模を誇る温泉地であり、札幌市民や観光客に親しまれていますが、近年は人々の旅行目的や嗜好も多様化しており、温泉や宿泊だけではなく、周遊や自然を生かした体験コンテンツの魅力向上などの必要性が増しています。

また、各種施設等の老朽化が進み、景観や温泉街らしさが失われつつあることや、定山溪の認知度不足などといったことが課題となっていることから、定山溪地区の観光資源としての魅力向上を目指し、「定山溪観光魅力アップ構想」に基づき取組などを進めます。

（1）定山溪地区の魅力向上

- ・温泉街らしさにぎわいを創出し、域内の周遊性を高めるため、魅力的な景観づくりや、足湯の新設などの周辺環境整備を行います。
- ・年間を通した集客イベントの充実を図るとともに、体験観光の需要が高まっていることから、アクティビティコンテンツの新規造成やレベルアップを図ることで新たな魅力を創出します。
- ・定山溪の認知度向上のほか、ターゲットに合わせて、誘客・周遊につながる情報発信や誘客プロモーションを多面的に実施します。
- ・観光客の受入体制の底上げのため、定山溪の観光魅力アップやおもてなしのサービスを支える人材を育成します。

（2）次期定山溪観光魅力アップ構想策定

- ・定山溪の魅力的な観光地づくりを進めるための指針として策定した「定山溪観光魅力アップ構想」の取組期間が令和6年度（2024年度）までで終了することから、次期構想の策定を検討します。